

QR Newsletter

第四紀通信

Vol. 9 No.3, 2002

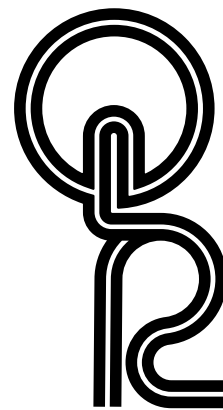


写真: 広島県神石郡神石町の帝釈大風呂洞窟遺跡の発掘調査. 最近の広島大学の調査によって, 縄文時代の遺物包含層の下位に, 絶滅動物の化石を含む堆積物が存在することが明らかになり, 今年夏の第7次調査で旧石器時代の動物と共伴する考古遺物の発見が期待されている (2001年8月24日河村善也撮影).

Vol. 9 No. 3

June 1, 2002

合同大会プログラム	2	第18期第5回・第6回第四紀研連	
2002年大会のお知らせ	3	議事録	9
研究委員会の募集	6	2001年度第4回・第5回幹事会	
各種募集	7	議事録	10
国際会議の案内	8	会員消息	11

◆ 地球惑星科学関連学会 2002 年合同大会プログラム

受付番号	著者	ショートタイトル	発表形式	日時 5月28日
000387	宮澤 育夫・高田 英樹・星住 英夫	阿蘇火山における過去約 9 万年間の降下軽石堆積物 (序報)	オーラル	9:30~9:45
001118	奥水 達司・内山 高・京谷 智裕	富士五湖湖底ボーリングコアに認められる富士山の火山活動	オーラル	9:45~10:00
000389	横山 正・梅村 崇志・豊田 新	神津島流紋岩の ESR (電子スピン共鳴) 年代測定	オーラル	10:00~10:15
001400	西村 剛志・福地 龍郎・今井 登	石英過酸化ラジカル中心の先第四紀年代測定への適用可能性	オーラル	10:15~10:30
001846	富入 陽介・吉田 邦夫・宮崎 ゆみ子	広域火山灰の C-14 年代 - 試料が埋没中に受けた汚染が年代値に与える影響の検討 -	オーラル	10:45~11:00
000750	大村 一夫・吉田 達	第四紀層間の相対的新旧判定の新しい試み	オーラル	11:00~11:15
000703	及川 輝樹・植木 岳雪・和田 肇	飛騨山脈の 1Ma 以降の急激な隆起: 層状層の礫組成を指標として.	オーラル	11:15~11:30
000813	亀山 宗彦・下山 正一・山中 寿朗	鹿児島県新島の化石群集の示す鹿児島湾奥部環境の変遷	オーラル	11:30~11:45
000550	平井 昌吾・後藤 篤・井口 博夫	岡山県蒜山原埋土を用いた古環境復元	オーラル	11:45~12:00
000412	堀 和明・斎藤 文紀	海水準上昇速度の変化に支配された長江の開折谷埋積過程	オーラル	12:00~12:15

受付番号	著者	ショートタイトル	発表形式	日時
000172	中村 洋介・岡田 篤正	富山平野西縁の活断層, とくに兵羽山断層の活動に伴う沖積面の変形について	ポスター	5月28日昼 (コアタイム 17:00-18:30) — 28日午前
000283	白井 正明	"絞り込み法"を用いた, 男鹿半島安田海岸における第四紀地殻垂直変動の復元	ポスター	
001745	八木 浩司・松垣 大助・Dorji Yeshi	Active faulting along the mount foot of the Bhutan Himalayas near Phuentsuoling, Southwestern Bhutan	ポスター	
001850	幡谷 竜太・尹 英重	北海道南西部後志利別川付近沿いの過去 10 万年の隆起量分布とその意義	ポスター	
001875	幡谷 竜太・田中 和広・尹 英重	十勝〜網走付近の内陸部隆起量分布と地殻変動特性境界	ポスター	
001788	平松 由起子・原田 強	新潟平野中央部の地形発達	ポスター	
000007	松浦 旅人・古澤 明	鬼首池月テフラに含まれる火山ガラス屈折率特性の層内垂直変化	ポスター	
000081	山田 国見・田上 高広・鎌田 浩毅	中部九州豊肥火山地域における流紋岩体の精密 K/Ar 年代測定	ポスター	
000507	塚本すみ子・緒貫 拓野	火山灰土中の石英微粒子を用いた光ルミネッセンス年代測定	ポスター	
000978	田村 糸子・山崎 晴雄	金沢に分布する大桑層の広域テフラ - 恵比須峠 /d38 テフラ, 大峰/d25 テフラの扶在層準	ポスター	
001580	横山 一己・酒岡 幸・高橋 直樹	第三紀/第四紀境界付近のテフラ鍵層の広域対比	ポスター	
001932	内山 高・奥水 達司	富士五湖湖底ボーリングコアからみた富士山の火山活動史	ポスター	
001788	竹下 欣宏	中部日本の中部更新統テフラと古期御岳火山テフラの角閃石の化学組成に基づく対比	ポスター	

◆第四紀学会 2002年大会のお知らせ (第3報)

1. 日時, 開催場所の概要 (2002年8月23日～27日: 信州大学)
2. 発表の申し込み (締め切りは6月15日に延期): 詳細は第2報をご覧ください.
3. シンポジウム: 詳細は第2報をご覧ください.
4. 野外見学会 (巡検) の概要, 申し込みほか.
5. 普及講演会
6. 懇親会
7. 講演予稿集の販売
8. 総会
9. その他 (評議員会)
10. 宿泊案内

1. 日時, 開催場所の概要

日程: 2002年 (平成14年) 8月23日～27日
 開催場所: 信州大学理学部C棟および経済学部大講義室
 〒390-8621 松本市旭3-1-1
 実行委員会 委員長: 赤羽貞幸
 委員: 公文富士夫・三宅康幸・堤 隆・及川輝樹ほか
 連絡先: 公文富士夫
 〒390-8621 松本市旭3-1-1 信州大学理学部物質循環学科
 Tel: 0263-37-2479
 Fax: 0263-37-2560
 e-mail: shkumon@gipac.shinshu-u.ac.jp

- 8月23日 (金) 一般研究発表 (口頭・ポスター), 夕方: 評議員会
 8月24日 (土) 一般研究発表 (口頭・ポスター)・普及講演会・総会, 夕方: 懇親会
 8月25日 (日) シンポジウム「日本アルプスの形成と自然環境の変遷」
 8月26日 (月)～27日 (火) 野外見学会 (3コース)

2. 発表の申込み

申し込み締め切りは6月15日 (必着) です. 詳細は第2報をご覧ください. なお講演要旨の書き方の例と発表申し込み要旨の書式が, 編集の手違いで第2報に掲載されませんでした. このお知らせの末尾に載せますので, それを参考にして下さい. このことを考慮して, 申し込み締め切り (6月3日) を12日間遅らせ6月15日 (土) としました.

3. シンポジウム

「日本アルプスの形成と自然環境の変遷」
 世話人: 三宅康幸・公文富士夫・赤羽貞幸・鈴木毅彦ほか
 詳細は第2報をご覧ください.

4. 野外見学会 (巡検)

- 1) 信州の旧石器遺跡と和田峠黒曜石原産地
 案内者: 堤 隆 (御代田町教育委員会, 八ヶ岳旧石器研究グループ)

巡検先の概要:

- ・26日午前:
 竹佐中原遺跡発掘調査現場 (飯田市, 長野県埋蔵文化財センター調査)
 後期旧石器をさかのぼる可能性のある石器群が飯田市竹佐中原遺跡で発掘中され注目を浴びている。その現場と出土石器を見学する。
- ・26日午後:
 和田峠黒曜石原産地 (和田村). 旧石器・縄文時代に中部・関東で利用された和田峠黒曜石原産地の見学

日程の概要: 松本駅東口 東急インの向かいに7:30集合, 松本-飯田-竹佐中原遺跡-中央道 (昼食バス内弁当) -諏訪-和田峠-松本駅6時頃解散

地形図: 長野県和田峠, および飯田市周辺の地形図

費用: 6000円 (バス代金等, 昼弁当代含む)
 募集人員: 最大45名, 最小30名

2) 上高地の自然環境と焼岳の火山地質

案内者: 三宅康幸 (信州大・理)・及川輝樹 (信州大・理)・岩田修二 (都立大・理)

巡検先の概要: 上高地の自然環境と地形の変遷, 焼岳火山の活動史と噴出物・地形

日程の概要: 26日午前9時 松本駅集合-貸し切りバス→上高地バスターミナル, 上高地見学, 上高地公園活動ステーション泊
 27日 焼岳登山 (一般向け登山道) 上高地バスターミナル-貸し切りバス→松本駅午後6時 (予定) 解散

必要な地形図: 2.5万分の1「上高地」「焼岳」「穂高岳」

参加費用: 1万8千円 (人数によって千円程度返却予定)

募集人員: 最大25名, 最小15名

3) 八ヶ岳の第四系 更新世の火山活動および遺跡

案内者: 内山高 (山梨県環境科学研究所)・八ヶ岳団体研究グループ

巡検の概要: おもに中期更新世の火山噴出物と湖沼堆積物およびそれらに挟在する広域火山灰を見学する. また, 旧石器遺跡を訪ねる.

日程: 8月26日 (月) 8:30 信州大学北門前集合-麦草峠 (中期更新世の火山噴出物)-八千穂村 (池の平遺跡)-川上村金山 (テフラの見学) -16時頃JR小海線野辺山駅解散

地形図: 1/5万「蓼科山」「八ヶ岳」

参加費用: 2000円程度

募集人員: 10名程度

移動方法: 自家用車

< 申し込み方法 >

今回はジオスクーリングネットを利用して, 申し込み受付をいたします. インターネットと同サイト (<http://www.geo-schooling.jp>) に

接続し、トップページの「研修検索と申し込み」をクリック、ついで「主催団体」、「日本地質学会」と選択していくと、行事リストがでてきて、その中に上記の巡検募集があります。それぞれの「募集要項」をクリックすると詳細情報が提示されます。

巡検に申し込まれる方は、一旦トップページに戻られて、利用者登録を行って下さい。

利用者登録によってID番号とパスワードが付与されます。その上で再度トップページの「研修検索と申し込み」から地質学会の行事リストへと進み、該当する巡検募集の「申し込み」をクリックして、付与されたID番号とパスワードを入力し、「申込」をクリックすると参加申し込みが完了します。

インターネットが利用できない方は、下記宛にe-mailか、ファクスで、氏名・住所・連絡方法(e-mail番号)、コース名を明記して、7月13日(金)までに申し込んで下さい。なお、最小人数を割り込みますと、巡検がキャンセルされることがあることをお断りしておきます。

申込先：公文富士夫
〒390-8621 松本市旭3-1-1信州大学理学部物質循環学科
Fax.0263-37-2560, e-mail:
Shkumon@gipac.shinshu-u.ac.jp

5. 普及講演会

「糸魚川ー静岡構造線活断層系北部地域の活動史と地震災害」

8月24日(土) 13:00～17:00に信州大学経済学部大講義室において開催いたします。

講演者と講演題目：

- ・電力中央研究所(演者未定) 糸魚川ー静岡構造線活断層系の発掘調査結果について(仮題)
- ・酒井潤一(信州大学名誉教授) 牛伏寺断層と松本の防災
- ・塚原弘昭(信州大・理・教授) 糸魚川ー静岡構造線北部活断層系の運動と地震災害について

6. 懇親会

日時 8月24日 18:00～

場所 理学部A棟多目的室およびウッドデッキ生協のケータリングで、ビールパーティ形式

参加費 一般5000円、院生・学生3000円

8月23日から会場で受け付けいたします。

7. 講演予稿集の販売

講演予稿集の予約販売は致しません。会期中に、会場受付にて直接販売します。郵送希望の方は、大会終了後、第四紀学会事務局(学会事務センター)へ直接申し込んでください。

8. 総会

今回の総会では、会費値上げ問題についての審議が行われます。重要議題ですので、会員の皆様は是非ご出席下さい。

9. その他

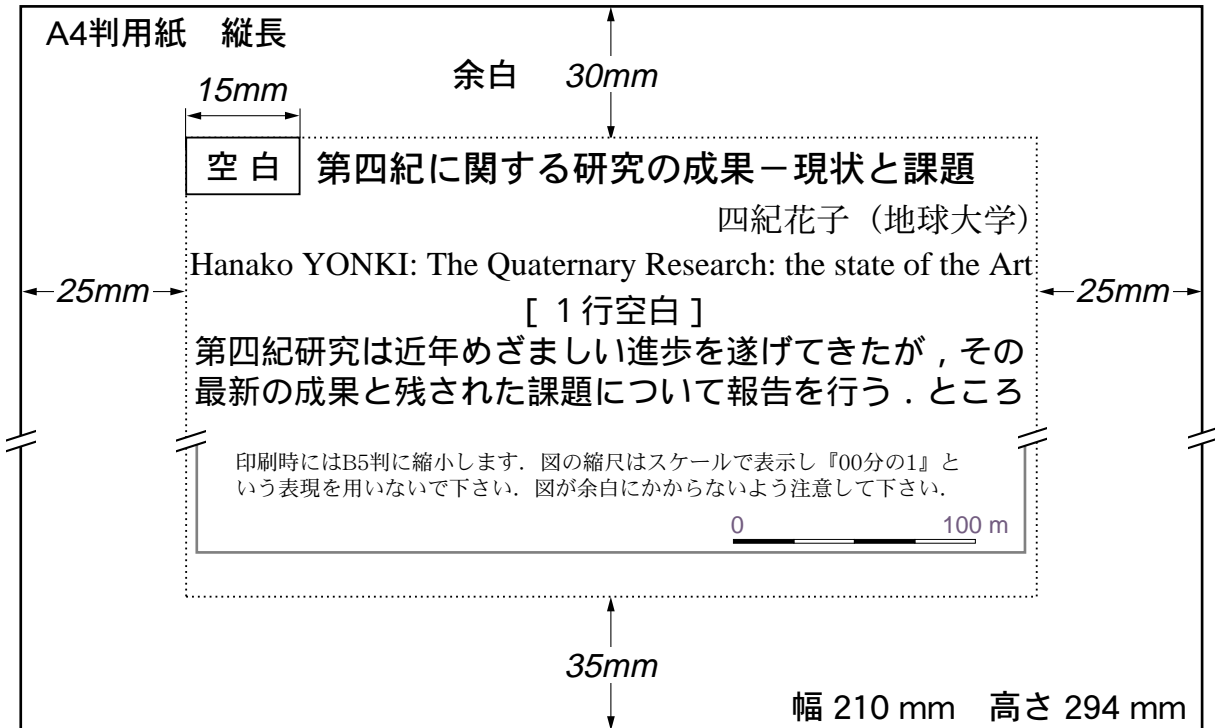
評議員会は8月23日の夕方に開催されます。時間および会場等の詳細については、学会事務局より各評議員に個別に連絡致します。

10. 宿泊案内

交通が比較的便利な松本駅周辺を下記に紹介します。宿泊申し込みは各自でお願いします。料金は宿泊のみの値段で、あくまで参考ですので、予約時にご確認下さい。これら以外に、少し値段が張りますが、浅間温泉は会場から歩いて15分程度です。公務員共済の美山荘(下表最下段)は浅間温泉街にあります。車のある方には美ヶ原温泉も魅力的です。

地域 施設名	電話番号	収容人数	宿泊料金(参考)
・松本駅前			
松本東急イン	36-0109	241	8,800～
ホテルブエナビスタ	37-0111	286	9,000～
松本ツーリストホテル	33-9000	209	5,800～
ホテル飯田屋	32-0027	172	6,000～
ホテルニューステーション	35-3850	111	6,800～
スピカイン	32-6000	135	6,000～
ホテル新升	34-5000	91	5,400～
ホテルモンターニュ松本	35-6480	84	6,400～
松本グリーンホテル	35-1277	56	6,000～
ホテルよろづや	32-1135	53	6,000～
ホテル大一屋	32-1066	45	6,650～
ホテルウエルカム	32-0072	40	6,500～
ホテルモルシャン	32-0031	84	6,700～
ホテルおたりや	32-1430	56	6,000～
ホテルウエストサイド	33-0088	29	5,500～
ウエルトンホテル	27-3000	37	7,000～
ロイネットホテル松本	37-5000	296	9,000～
エースイン松本	35-2138	167	9,000～
・市街地			
ホテル池田屋	32-0805	40	6,300～
・城近辺			
松本ホテル花月	32-0114	117	6,500～
ハミルトンイン	32-2888	40	6,000～
ホテル末広館	32-4340	24	5,000～
ホテル百萬両	32-4222	22	5,000～
・近郊外			
ホテルサンルート松本	33-3131	70	5,200～
・浅間温泉			
公立学校共済「美山荘」	46-1547	100	6,040(1泊朝食付)

「講演要旨の書き方の例」と「発表申し込み要旨」の書式
 (第四紀通信 9-2 に掲載予定でしたが欠落してしまい、ご迷惑をおかけしました。)



発表申し込み要旨

氏名 (所属)						
題目						
発表内容 講演要旨には 掲載しません						
連絡先	〒					
	Phone			Fax		
	e-mail					
発表種別	一般研究発表			シンポジウム		
○をつける	オーラルセッション	どちらでもよい	ポスターセッション			
スライド・ OHPの使用 ○をつける	スライド (8枚以内)		スライド+OHP (8枚以内)		OHP (8枚以内)	

◆ 研究委員会の募集のお知らせ

研究委員会は、会則第17条に基づく特別委員会の一種で、第四紀学の特定の研究課題についての国内・国外の情報を交換し、研究を推進するためのグループです(末尾の内規参照)。国際第四紀学連合(INQUA)の研究委員会(Commission:分科会 Sub-commission, 作業部会 Working Group を含む)などに対応する国内委員会としての役割を果たすことを目的としています。通例、日本第四紀学会の大会前に新規の募集を行い、今回は2002年度(2002年8月～2003年7月)新規発足分の研究員会を対象とします。なお、1999年INQUA第15回大会で新しく決まった委員会構成を受けて、研究委員会の募集を行います。現在継続中の研究委員会については、再提出の必要はありません。新規に研究委員会を設立する場合のみが対象となります。

新しい委員会の設置を希望される場合は、末尾の内規を参考に、委員会名、代表者名、連絡先、目的、活動予定期間、予想される参加者数と少なくとも5名以上の正会員の提案者名を明記の上、7月31日までに庶務幹事まで文書で申し出て下さい。

提案頂いた委員会は、2002年8月に予定されている評議員会で審議されることとなります。承認され次第、助成金の交付を受けることができます。

庶務幹事 鈴木毅彦

〒192-0397 東京都八王子市南大沢1-1
東京都立大学大学院理学研究科地理学教室
Tel 0426-77-2590 (直通) FAX 0426-77-2589
E-Mail: suzukit@comp.metro-u.ac.jp

日本第四紀学会研究委員会内規 (1992年9月13日評議員会)

- 1) 研究委員会は、会則第17条に基づく特別委員会の一種で、第四紀学の特定の研究課題についての国内・国外の情報を交換し、研究を推進するためのグループである。当分の間、国際第四紀学連合(INQUA)の研究委員会(Commission)(分科会 Sub-commission, 作業部会 Working Group を含む)などに対応する国内委員会としての役割を果たすことを目的とする。
- 2) 研究委員会の設置は、少なくとも5人以上の正会員からの申し出に基づいて、幹事会から評議員会に提案され、評議員会の承認を得るものとする。
- 3) 研究委員会の発足を希望する会員は、委員会名、代表者、連絡先、目的、活動予定期間、予想される参加者数などを文書で幹事会に申し出るものとする。
- 4) 研究委員会の目的を推進するために、学会は財政的に可能な範囲内で、研究委員会の会議費を4年を限度として交付する。
- 5) 研究委員会の任期は当面4年間とするが、5年度以降も会議費の配分を受けずにさらに4年を限度として任期を延長することができる。
- 6) 研究委員会は、集会の開催通知や活動記録などを「第四紀研究」に掲載することとし、集会は一般会員にも公開することを原則とする。
- 7) 研究委員会の責任者は毎年年度末までに活動報告および次年度の活動の希望の有無を幹事会を経由して評議員会に文書として提出しなければならない。
- 8) 研究委員会の運営は責任者に一任するが、この内規で処理できない点については、幹事会と協議するものとする。

◆ 第6回尾瀬賞募集のお知らせ

目的：「湿原」に関する学術研究を顕彰することにより、この分野の学問的・学際的研究の伸展を図るとともに、環境保護に関する関心を高めることを目的とする。

候補者の対象・資格：個人を対象，グループ研究による場合は代表者による申請とする。湿原に関する研究において，学術的及び湿原保全の見地から優れた業績を上げ，今後の研究の深化が期待される人。研究対象は，「泥炭を有する湿原及びそこを生活の場とする生物」とする。研究対象は，尾瀬ヶ原に限らず日本及び国外の様々なタイプの湿原を対象とする。応募者年齢は，平成14年4月1日現在において，原則として50歳未満。

募集期間：2002年4月1日～9月20日（当日の消印有効）

応募方法・応募用紙請求・注意事項・その他詳細の問い合わせ先

財団法人尾瀬保護財団事務局「尾瀬賞」係

〒371-8570 群馬県前橋市大手町1-1-1 群馬県庁19階

電話：027-220-4431 FAX：027-220-4421

E-mail: info@oze-fnd.or.jp

ホームページアドレス: <http://www.oze-fnd.or.jp/>

◆ 平成14年度原子力安全基盤調査研究の提案公募について

経済産業省原子力安全・保安院では、原子力安全規制行政の分野において従来の原子力工学領域だけでは解決できない新たな安全上の課題に取り組むため、大学等からの公募により、自然科学及び人文・社会科学の広範囲な学術領域にわたって原子力安全に関する知識基盤の創生につながる調査研究を行います。つきましては下記の通り、平成14年度の研究課題を公募することにいたしましたのでご案内申し上げます。

・公募の目的

原子力発電所の安全審査等の規制活動において、これまで必要とされてきた原子力の工学領域に加え、新たに国民の関心が高い地震学・地質学や人文・社会科学の学術領域の知識基盤に係る調査研究を実施することにより原子力安全規制行政の安全基盤を充実させ、もって安全確保に万全を期することを目的とする。

・公募対象分野

平成14年度は以下の分野とする。

1. 活断層・地震関連分野【具体的なテーマは下記ホームページ要確認】
2. 人文・社会科学分野【具体的なテーマは下記ホームページ要確認】

・応募対象者

対象研究分野に実績のある個人、グループ。大学・民間法人等含む。

・委託研究の規模・期間

1研究テーマにあたり、年間1,000万円まで

平成14年度から開始し、最長3年間。（毎年度新規公募を予定）

平成14年度は研究テーマ10件程度を採用予定（活断層・地震関連分野7件程度、人文・社会科学分野3件程度）

・公募期間

平成14年6月3日～7月12日

問い合わせ先

公募対象分野1について

独立行政法人 産業技術総合研究所活断層研究センター（提案公募係）

〒305-8567 茨城県つくば市東1-1-1

TEL：0298-61-3668 FAX：0298-61-3803 E-mail: koubo-jimu@m.aist.go.jp

ホームページ: <http://unit.aist.go.jp/actfault/activef.html>

公募対象分野2について

財団法人 原子力発電技術機構 安全対策計画室

〒105-0001 東京都港区虎ノ門3-17-1 藤田観光虎ノ門ビル 安全対策計画室（芦田/山田）

TEL：03-4512-2424 FAX：03-4512-2439 E-mail: koubo@nupec.or.jp

ホームページ: <http://www.nupec.or.jp/>

◆ International Geological Correlation Program Project No. 464
Continental Shelves During the Last Glacial Cycle: Knowledge and Applications
2nd Annual Conference (South America)

Date: 30 August – 3 September, 2002

Venue: Institute of Oceanography of the University of São Paulo (São Paulo and Cananéia cities, Brazil)

The aim of IGCP project 464 (<http://tetide.geo.uniroma1.it/igcp464.html>) is the definition of the palaeoenvironmental evolution of the continental shelves, leading to their present morphology, stratigraphy and sedimentology. The geological approach to the environment and to its global changes is in fact based on a complete understanding of the long-term cyclicity of natural systems. On the continental margins the leading factor is undoubtedly the very rapid changes in sea level that brought it from ca. -125m during the Last Glacial Maximum (ca. 20ka BP) to its present position in little more than 10,000 years at an average rate of 1m/century. The project will therefore be focused especially on the Last Glacial Maximum and to the following sea-level rise. In fact the LGM is a key event in Pleistocene/Holocene evolution, as it represents the main and latest extreme in sea-level and climatic trends at a global scale. The conditions at the LGM on continental shelves and their effects on coastal plains and continental slopes will thus be the "starting point" of the most recent and continuing environmental cycle.

All researchers interested in the evolution of the continental shelves, the processes that led to their present form and applications of this knowledge are welcome to participate.

The Conference will be held in São Paulo and Cananéia cities, in the State of São Paulo, Brazil. The Conference will be organized by Associate Professor Michel Michaelovitch de Mahiques, Brazilian national representative for the Project. The Conference will be linked with the Brazilian Symposium on Oceanography, which will be held in São Paulo City, from 26-30 August, 2002.

詳細については齋藤文紀 (e-mail: yoshiki.saito@aist.go.jp)までお問い合わせ下さい。

◆ Barbados 2002 - International Conference on “Quaternary Sea Level Change“
with Field Trips and Fourth Annual Meeting of IGCP Project 437 “Coastal Environmental Change During Sea Level Highstands: A Global Synthesis with Implications
for Management of Future Coastal Change”

INQUA Commission on Coastlines, IGU Commission on Coastal Systems

Date: 26 October - 2 November 2002

Barbados (W.I.)

The Universities of Cologne and Bamberg, Germany, invite coastal researchers in behalf of the IGCP Project 437 “Coastal Environmental Change During Sea-Level Highstands in the Late Quaternary“ to the International Conference “BARBADOS 2002 - Quaternary Sea Level Change“ to be held on Barbados, Worthing, Asta Beach Resort Hotel from October 26th to November 2nd, 2002. BARBADOS 2002 is a multi-disciplinary international conference for scientists focusing on the field of Quaternary sea level change. Topics include the dating of Pleistocene and Holocene marine terraces and coral reefs; the reconstruction of palaeo sea level curves; fundamental studies on sea level, isostasy, and tectonics; and advances in techniques and applications for sea level analysis. Paper and poster presentations will give both an overview and detailed information on latest advances and diverse applications related to the study of sea level change during the Quaternary.

Integral to the conference is a three-day field trip during which important localities on Barbados will be visited. This field trip will provide an overview of the interplay of tectonics and coral reef tract formation on Barbados during the Quaternary. This field trip furthermore provides the opportunity to visit some “classic“ sites of marine Quaternary geology, including Barbados I, II, and III. A field guide publication will introduce the final results of a long-term research project on the geomorphologic mapping and ESR and TIMS-U dating of fossil coral reefs on Barbados.

詳細については海津正倫 (e-mail: umitsu@nucc.cc.nagoya-u.ac.jp)までお問い合わせ下さい。

◆第18期・第5回第四紀研究連絡委員会議事録

第18期・第5回第四紀研究連絡委員会 議事録(案)
 日時：2001年12月19日(水) 13:30～17:10
 会場：日本学術会議第4部部会室
 出席：町田 洋 岩松 暉 赤羽貞幸 大村明雄
 小野 昭 齊藤享治 齋藤文紀 坂上寛一 中村
 俊夫 真野勝友 吉川周作
 欠席：海津正倫 小泉 格

報告

1. 前回議事の確認

第18期・第4回第四紀研究連絡委員会(2001年10月31日開催)

2. 地質科学総合研究連絡委員会へ当研連委員小泉格氏が委員長代理として出席, 日本学術会議第4部における研究連絡委員会および専門委員会の見直しと再編成に関する検討状況が, 資料に基づき報告された。

3. 2001年11月29日付けで, 日本学術会議第4部大瀧仁志部長から「第4部新研究連絡委員会又は新専門委員会設置申請書」が本研連に届けられ(資料あり), 2002年1月7日(月)までの回答が求められた。なお, 本申請書に回答しない場合は, 研連を解消してもよいものと了解される場合があるという厳しい内容であることが, 改めて報告された。

議題

1. 第4部研連改組問題

岩松 暉委員提出の資料(研連見直しについて)などに基づき, 「第4部新研究連絡委員会又は新専門委員会設置申請書」作成に関する討議を通して, 当面は, 町田 洋委員長案(“第四紀”の名称を残すことを考えながら, 見直し或いは再編成案を模索する)にしたがい, 地質関係研連との協議に入ることとした。その際の選択肢として, 以下の可能性が議論された:

(1) 委員数の削減はやむなしとするが, 第四紀研連はそのまま存続させる。

(2) 地質科学大研連(名称未定)の下での専門委員会となる。

(3) 中研連(環境変遷史—名称未定)の下で古生物関係とともに専門委員会となる。

(4) 中研連(地質科学総合または環境地学—名称未定)の下で応用地質関係とともに専門委員会となる。

2. 研連主催のシンポジウム開催予定について

現在のところ, 以下の2件のシンポジウムの開催予定が紹介・了承された。

(1) 小野 昭(世話人)「旧石器時代研究の新しい展開を目指して—旧石器研究と第四紀学」: 2002年2月23日開催予定。

(2) 坂上寛一(世話人)「古土壌—仮題」: 2002年5月末東京工業大学(大岡山キャンパス)において開催予定。

3. INQUA 招致関係

委員長から「INQUA 招致準備委員会(仮称)」設

置原案が提出され(資料), 意見交換を行った, その席上1999年のダーバン大会においてリノ大会が準備した招致資料が回覧された。

現在のところ, 我国のほかオーストラリアで2007年大会の開催を招致する提案があると報告された。

今後は, 委員長がリストアップした委員候補者に呼び掛け, INQUA 招致委員会を2002年1月26日(土)に筑波大学学校教育部で開催する。

追記

本委員会終了後, 17期の第四紀研連委員長, 学術会議会員および関連する地質関係者との意見交換を行った結果, 委員長は, 上記の原案(1)ではなく(2)～(4)から選ぶことが適当と判断し, 現委員の間に修正案を提示して書面付議を行った。すなわち, 第四紀研連が単独で存続すると主張することは, 本研連の孤立化を招く恐れがあり, 必ずしも現実的ではないと判断し, 今後は他の複数研連との統配合を前提とした専門委員会化の方針で対処することに対する各委員の意見を求めた。それに対する審議結果は次回の議事録に掲載予定である。

(大村明雄)

◆第18期・第6回第四紀研究連絡委員会議事録

日時：2002年3月7日(木) 10:00～12:30

会場：日本学術会議第4部部会室

出席：町田 洋 岩松 暉 赤羽貞幸 小泉 格
 齊藤享治 齋藤文紀 中村俊夫 小野 昭
 欠席：海津正倫 大村明雄 坂上寛一 真野勝友
 吉川周作(順不同敬称略)

報告

1. 学術会議(岩松会員報告): 資料あり「日本学術会議の在り方について」連合部会(2002.2.14)

学術会議メンバーの大幅増を前提とするいわば科学アカデミー構想に通ずるもので, 第四部での議論ではこの案については否定的であった。

2. 第四部研連改組問題(岩松会員): 資料「第4部世話担当研究連絡委員会再編(案)」あり。

前委員会とそれ以後の協議(地質科学関係の学術会議会員と委員長, 委員間)の結果, 19期から第四紀研連は地質科学総合研連のものと第四紀学専門委員会に改組することになった。また「地質科学総合」という名称は, 実態に合致していないが, 会員推薦研連になっており規則に記されているので今は変えられない。

3. 平成15年度科研費に関する分科・細目案の改訂(委員長): 第四紀研究に関連の深い分科・細目および対応研連の表に「第四紀」を入れるように主張した結果は, 次のように決まった。

1) 総合領域分野の分科「文化財科学」のキーワードに「第四紀学」, 対応研連に「第四紀研連」。

2) 数物系分野の分科「地球惑星科学」の地質学細目のキーワードに「第四紀学」また対応研連に「第四紀研連」を, 層位・古生物学細目の対応研連に「第

四紀研連」。

なお上記3つの分科細目の窓口研連はそれぞれ考古学研連、地質学研連、古生物学研連である。

4. 研連主催シンポジウム

1) 2002年2月23日シンポジウム「旧石器時代研究の新しい展開を目指して－旧石器研究と第四紀学－」都立大小講堂 参加約200名 日本第四紀学会と共催。

2) 2002年3月3日「第1回高精度14C年代測定研究委員会公開シンポジウム」日本大学文理学部100周年記念館 参加100名弱 日本第四紀学会高精度14C年代測定研究委員会と共催。

5. INQUA 招致委員会の発足

2002年1月26日に第四紀研究連絡委員会「2007 INQUA 招致ワーキンググループ」を立ち上げた。事務局は(独)産業技術総合研究所活断層研究センターにおくこととし、主にワーキンググループ内での連絡やホームページの管理を行うことが確認された。委員長に熊井久雄氏が選出された。幹事には佃栄吉氏、齋藤文紀氏、奥村晃史氏、鈴木毅彦氏が。また顧問に町田 洋氏、太田陽子氏が選出された。

審議事項

1. 第4部研連改組問題：新たな期(19期)を予定し18期から必要な準備を進める。「第4部世話担当研究連絡委員会再編(案)」では、現研連「地質科学総合」9名、「第四紀」13名)を合わせた「地質科学総合」22名の内訳を、環境地質専門委員会11名、第四紀学専門委員会11名としたことを巡って議論された。その結果、環境地質専門委員会にも第四紀学会からも委員が入るよう明記することを条件にこの案を諒承することになった。また環境地質専門委員会と第四紀学専門委員会を統合する新しい研連名としては、「地質科学総合」ではなく近い将来ふさわしい別名称を考えることを宿題とすることが決まった。

2. INQUA リノ大会への準備企画：目標としては、2003年8月リノ大会国際評議員会での開催地選考までに、第1次サーキュラ程度の招致用資料(CD版)を招致委員会が具体的に考え、研連としてこれをサポートすることになった。

3. 研連主催シンポジウム：・新しい研連をにらんでシンポジウムを少なくとも年2回は開催する。・次回は土壌関係中心のシンポジウムを考える。

4. 国際会議 9th International Conference on Accelerator Mass Spectrometry AMS-9 in 2002が9月9日から13日まで名古屋で開催されることの紹介があった。

5. INQUA Inter Congress の東アジア版ともいうべきプレシンプを日本・中国・韓国・台湾の規模で進めることができないか。若干の議論をおこない進めるべきであるとの意見で一致した。

6. 大村明雄委員から02年4月から2年間学部長職に任ぜられることになったので、研連活動に支障をきたすため委員を辞職したいとの申し出があり、やむを得ない事情なので認めることにした。大村委員はINQUA対応委員として選出されたので、代りにINQUA Commission on neotectonics の secre-

tary である奥村晃史氏が推薦され、了承された。

7. 大村委員は研連委員会の幹事の一人なので、新たに幹事を委嘱する必要がある。これについては現幹事の小野委員が委員長と相談の上、委嘱する段取りとなった。

(小野 昭)

◆ 2001年度第4回幹事会議事録

日時：2002年1月26日(土)10:00～10:30

場所：筑波大学学校教育学部G204号室

出席：熊井久雄，真野勝友，小野 昭，鈴木毅彦，山崎晴雄，河村善也，海津正倫，宮内崇裕，小田静夫，中川庸幸，町田 洋

欠席：福澤仁之，竹村恵二

1. 報告事項

・会員動向(2002年1月24日現在)と第2回評議員会の出席状況の確認を行なった。

・論文賞選考委員の選挙結果報告(遠藤邦彦，大場忠道，齋藤文紀，松浦秀治，吉川周作。次点：小泉武栄の各会員)。

・複写権等委託契約(学術著作権協会)を行なった。

・日本学術会議ホームページアドレスとの相互リンクを結んだ。

2. 審議事項

・評議員会での配付資料の確認をおこなった。

・国際会議「第9回加速器質量分析国際会議」(2002年9月9日～13日：名古屋大学)，18th Himalaya-Karakorum-Tibet Workshop (2003年3月下旬：日本)への後援を決定した。

・評議員会の審議でもある次の事項についてその内容を確認した。(1)別刷無料贈呈について，(2)会費値上げについて，(3)学生会員の更新について。

◆ 2001年度第5回幹事会議事録

日時：2002年3月16日(土)15:00～17:00 会場：筑波大学学校教育学部

出席：真野勝友，小野 昭，鈴木毅彦，山崎晴雄，竹村恵二，河村善也，宮内崇裕，小田静夫，町田洋，中川庸幸

欠席：熊井久雄，海津正倫，福澤仁之

1. 報告事項

・庶務：会員消息2001年12月と2002年1月分の報告。前回以降，7機関から10冊の図書寄贈。日本学術会議に対する学術団体登録申請の日程確認。論文賞受賞候補者選考委員の委員長に大場忠道会員が選出された。日本学術会議第4部会からJABEEに関するアンケートの依頼があった。

・編集：第四紀研究41巻1号を刊行(2月1日刊行)し，2号(4月1日刊行予定)の編集作業中(2校)。

2号には原著論文4編、短報2編、書評1編を掲載予定。編集委員会を1月12日午後、筑波大学学校教育部で開催した。1月12日現在、受理済み論文9編（内41巻2号掲載6編、4号予定3編、査読中22編、レジェクト論文2編）（以上書評を除く）。

投稿数が減少しており、41巻4号以降（受理済み3編のみ）で掲載論文涸渇の恐れあり。昨年夏、鹿児島で実施した大会シンポジウム特集は41巻3号に掲載（6月1日刊行）を目途に鋭意編集中。

・行事：第四紀通信掲載予定の2002年大会の記事に関する報告。

・企画：2002年2月23日に開催されたシンポジウム「旧石器時代研究の新しい展開をめざして—旧石器研究と第四紀学—」が開催され、参加数約200名と盛況であったことが報告された。その記録を第四紀研究に掲載すること検討中。その他、第8回日本第四紀学会講習会を検討中。

・渉外：2002年地球惑星科学合同大会：レギュラーセッション「第四紀」のプログラム編成の終了報告。今回の発表数はオーラルで10件、ポスターで19件と順調であるとの報告。自然史学会連合：3月2日に国立科学博物館（分館）にて2002年第1回運営委員会が開催された。

・広報：「第四紀通信(QR Newsletter)」Vol.9-2（2002年4月）を作成中である。

・第四紀研究連絡委員会：3月7日に第6回専門委員会が開催された。第19期から第四紀研連は専門委員会になることと、科学研究費分科細目の層位・古生物、地質学、文化財で審査委員候補者の推薦依頼のあることが報告された。

2. 審議事項

・第四紀研究からの図版転載許可（第四紀研究40巻471-484頁 図1,4,5,10表1～6→青森県史 別編 三内丸山遺跡：青森県へ）を行なった。

・会費値上げの検討を目的として6月1日（土）に臨時評議員会を開催することを決定した。

・会費値上げ案に関する各種資料をもとに、具体的な会費の値上げ額・その妥当性などについて審議した。また、8月発行の第四紀通信の記事として、総会にて会費値上げ議案を提出する旨を掲載することにした。

・科学研究費分科細目の〈層位・古生物〉、〈地質学〉、〈文化財〉での審査委員候補者に関して、学会としての対応について審議した。

・次期幹事会の日程は以下のとおり。

4月27日（土）50周年事業に関する検討 10:30～
早稲田大学教育学部16号館5階

5月18日（土）臨時評議員会にむけて 14:00～
東京都立大学人文学部

・コレスポンドイングオーサー制について

読者からの別刷り請求、問い合わせなどに対応するコレスポンドイングオーサー制の導入を望む声が編集委員からあがっている。具体的には、著者が院生などの場合、

卒業後連絡不能になり、実質的に共著者（多くは指導教員）が連絡・書き直しなどの対応をとる例が増えてきている。この様な人をコレスポンドイングオー

サーと明示して連絡先を論文に載せる（現行は筆頭著者のみ、e-mail address を載せている）というもの。この件について審議し、導入することとした。

お詫び

講演要旨の書き方の例と発表申し込み要旨の書式が、編集の手違いで第2報に掲載されず、大変ご迷惑をおかけしました。本号5ページに掲載したものをご利用くださるようお願いいたします。

★★★ 第四紀通信に情報をお寄せ下さい ★★★

第四紀学会広報委員会 名古屋大学環境学研究科地理学講座
海津正倫 (e-mail: umitsu@nucc.cc.nagoya-u.ac.jp)
〒464-8601 名古屋市千種区不老町 Tel: 052-789-2270
Fax: 052-789-2272

次号は7月上旬原稿締切, 8月1日発行予定です。

第四紀学会ホームページ <http://wwwsoc.nii.ac.jp/qr/QR2home.htm> で、第四紀通信バックナンバーのPDFファイルを閲覧できます。

5月29日

受付番号 著者 ショートタイトル 発表形式 発表時間

- 000387 宮縁 育夫・高田 英樹・星住 英夫： 阿蘇火山における過去約9万年間の降下軽石堆積物(序報) オーラル 9:30～9:45
- 001116 興水 達司・内山 高・京谷 智裕： 富士五湖湖底ボーリングコアに認められる富士山の火山活動 オーラル 9:45～10:00
- 000389 横山 正・梅村 崇志・豊田 新： 神津島流紋岩のESR(電子スピン共鳴)年代測定 オーラル 10:00～10:15
- 001409 西村 剛志・福地 龍郎・今井 登： 石英過酸化ラジカル中心の先第四紀年代測定への適用可能性 オーラル 10:15～10:30
- 001645 宮入 陽介・吉田 邦夫・宮崎 ゆみ子 広域火山灰のC-14年代-試料が埋没中に受けた汚染が年代値に与える影響の検討- オーラル 10:45～11:00
- 000759 大村 一夫・吉田 進： 第四紀層間の相対的新旧判定の新しい試み オーラル 11:00～11:15
- 000703 及川 輝樹・植木 岳雪・和田 肇： 飛騨山脈の1Ma以降の急激な隆起:居矢里層の礫組成を指標として. オーラル 11:15～11:30
- 000613 亀山 宗彦・下山 正一・山中 寿朗： 鹿児島県新島の化石群集の示す鹿児島湾奥部環境の変遷 オーラル 11:30～11:45
- 000559 平井 昌吾・後藤 篤・井口 博夫： 岡山県蒜山原珪藻土を用いた古環境復元 オーラル 11:45～12:00
- 000412 堀 和明・斎藤 文紀： 海水準上昇速度の変化に支配された長江の開析谷埋積過程 オーラル 12:00～12:15

5月28日 昼(コアタイム 17:00-18:30) - 29日 午前

受付番号 著者 ショートタイトル 発表形式 日時

- 000172 中村 洋介・岡田 篤正： 富山平野西縁の活断層，とくに呉羽山断層の活動に伴う沖積面の変形について ポスター
- 000263 白井 正明： ”絞り込み法”を用いた，男鹿半島安田海岸における第四紀地殻垂直変動の復元 ポスター
- 001745 八木 浩司・桧垣 大助・Dorji Yeshi： Active faulting along the mount foot of the Bhutan Himalayas near Phuentsuoling, Southwestern Bhutan ポスター
- 001856 幡谷 竜太・尹 英亜： 北海道南西部後志利別川付近沿いの過去10万年の隆起量分布とその意義 ポスター
- 001875 幡谷 竜太・田中 和広・尹 英亜： 十勝～網走付近の内陸部隆起量分布と地殻変動特性境界 ポスター
- 001798 平松 由起子・卯田 強： 新潟平野中央部の地形発達 ポスター
- 000007 松浦 旅人・古澤 明 鬼首池月テフラに含まれる火山ガラス屈折率特性の層内垂直変化 ポスター
- 000081 山田 国見・田上 高広・鎌田 浩毅： 中部九州豊肥火山地域における流紋岩体の精密K/Ar年代測定 ポスター
- 000507 塚本 すみ子・綿貫 拓野： 火山灰土中の石英微粒子を用いた光ルミネッセンス年代測定 ポスター
- 000976 田村 糸子・山崎 晴雄： 金沢に分布する大桑層の広域テフラ-恵比須峠/Kd38テフラ，大峰/Kd25テフラの挟在層準 ポスター
- 001560 横山 一己・満岡 孝・高橋 直樹： 第三紀/第四紀境界付近のテフラ鍵層の広域対比 ポスター
- 001932 内山 高・興水 達司： 富士五湖湖底ボーリングコアからみた富士山の火山活動史 ポスター
- 001786 竹下 欣宏： 中部日本の中部更新統テフラと古期御岳火山テフラの角閃石の化学組成に基づく対比 ポスター